

1級第4回学科試験問題傾向分析と今後の対策

【総評】 (第3回との比較)

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲の出題数に、大きな変化はみられない		①②③④⑤参照
B	科目・範囲として新たに設定された「学校教育制度、キャリア教育」については1問の出題であり、その分、相談実施過程において必要なスキルが1問減少した		①②③④⑤参照
C	細かい知識・数字や細かい議論に踏み込んだ出題が多い	問1問9 問13問27等	①②③④⑤参照
D	これまでほとんど出題されていない分野からの出題がみられる	問30、 問33等	①②③④⑤参照
E	日本語の「語感」で正解肢がわかる出題がみられる	問2問45 問49等	⑥⑦参照

【科目・範囲ごとの出題数()は第3回からの増減、難易度】

	科目・範囲	出題数()	難易度
1①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	1(±0)	難が1問
1②	キャリア・コンサルティングの役割の理解	2(±0)	易が2問
1③	キャリア・コンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2(±0)	易が2問
2①	キャリアに関連する理論の理解	3(±0)	中が1問、易が2問
2②	カウンセリングに関連する理論の理解	3(±0)	難が2問、中が1問
2③	自己理解に関する理解	2(±0)	難が2問
2④	仕事・職業に関する理解	2(±0)	中・易が各1問
2⑤	職業能力開発に関する理解	2(±0)	難が2問
2⑥	雇用管理(人事管理・労務管理)に関する理解	3(±0)	難・中・易が各1問
2⑦	労働市場に関する理解	2(±0)	中・易が各1問
2⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	2(±0)	中・易が各1問
2⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	1(+1)	易が1問
2⑩	メンタルヘルスに関する理解	3(±0)	難易が各1問
2⑪	ライフステージ、発達課題に関する理解	2(±0)	難・中が各1問
2⑫	転機に関する理解	1(±0)	易が1問
2⑬	相談者の典型的・個人的特性に関する理解	1(±0)	中が1問
3①	基本的スキル	2(±0)	中・易が各1問
3②	相談実施過程において必要なスキル	2(-1)	中が2問
4①	キャリア形成、キャリア・コンサルティングに関する教育、普及活動	2(+1)	易が2問

4②	環境への働きかけの認識と実践	2(-1)	易が 2 問
4③	ネットワークの認識と実践	1(±0)	易が 1 問
4④	自己研鑽・スーパービジョン	1(±0)	易が 1 問
4⑤	キャリア形成支援者としての姿勢	1(±0)	易が 1 問
5	グループアプローチ	2(±0)	中・易が各 1 問
6	教育指導	2(±0)	難・易が各 1 問
7	スーパービジョン	3(±0)	易が 3 問

【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン(70 点)を確実にクリアするために、これまで頻出の基本的・基礎的な内容を確実に理解し、得点する
②	「1級キャリア・コンサルティング技能士」が指導者として面談をする際に必要な深い知識、指導・コーディネートする際に必要な基礎的な知識を中心に習得する
③	今回新たに出題された内容や新しいキーワード、細かい数字などにこだわることなく、基本的・基礎的な内容の理解に注力する
④	「キャリアの赤本」を活用し、1科目から 4 科目で必ず押さえておくべき頻出分野や内容を把握しておく(1級の過去問分析を行う場合は、第 3 回と第 4 回を行う)
⑤	1級学科試験対策用テキストとの評価が高い「キャリアの青本」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ確実な定着を得る
⑥	「日本語の語感による正答(例:のみ、~することはない等)発見」のテクニックを体得して、得点力をアップする
⑦	試験の解答技術を向上し、時間配分の技術、ケアレスミスをしない方法を体得する

以上